

## お花のプレゼント

2023・8・28 重枝 一郎

「まだそうはならない」という先生もいるかもしれないが、これからは人間関係をベースにした社会になる。働くうえでは実務能力も大切だが、「あなたが好きだから一緒に仕事がしたい」という信頼関係が軸になっていく。

では、そんな信頼関係を築いていくためにはということになる。

それは、「**与える人**」になるということである。

このことは、キリスト教主義の本校の大切なマインドとも言えるのでしっかり浸透させていくことが、本校の存在意義になると考える。私の感覚で申し訳ないが、時代が本校に追いついてきたという感覚である。上から目線はよくないが（笑）。

私は昨年度、できるだけ音楽科の生徒が出るコンテストや発表会に足を運んだ。生徒の激励という建前はあるのだが、私自身のためという考えがあった。私は本校に来るまでこのような場に好んで行くことはしていなかった。当然つながりもない。音楽科のある学校は初めてであり、これでは学校長として音楽科の立場に立って考えることはできないわけがないと思ったからである。少しでもそのシャワーを浴び理解を深めていけたらと思った（**「成長はたし算の法則」**。1学期に高1、高2の学年集会でも話した）。生徒のコンテストや発表会に行く際、出演する生徒には花のプレゼントを用意した。花に付けるメッセージカードを書くときは、相手のことを想像して、相手が喜んでくれる姿も想像している。そして、贈る私がうれしい気持ちになっている。その後、担任や生徒、保護者からお礼を言われる。そのお礼の言葉から、「この人は自分のことを考えてくれている」という信頼の始まりを感じる。好意が生まれる。

「**与える人**」というのは、金品でなく、言うまでもなく気持ちの話である。そして「**与える**」ときは、上のように「**相手の視点に立って考えること**」を無意識にしている。

しかし、この「**与える**」は信頼関係づくりだけでない。もう一つ言えることとして「**他者への“与える”で、自分が成長する**」ということがある。相手の視点に立つことは、相手を喜ばせられるだけでなく、自分の視野を広げることにもなっている。私自身音楽の世界に触れていることを考えたら、抽象的ではあるが自分の世界が広がって、なんとなく成長実感をもっている。

「**与える**」の鉄則はある。それは「**まず自分から**」ということである。相手のためにもなり、自分のためにもなるのだから、当然「**まず自分から**」が鉄則と考える。まず、こちらが信頼している態度を示すと、相手も心を開いてくれることが多い。そして自分が成長するチャンスが増える。日頃から小さな「**与える**」を続けていると、他者からの信頼度は高まっていく。そうやって積み重なった個人的な「**信頼**」は、だんだん「**評判**」となって周囲（特に「**与える**」をしていない人たち）にも広がる。その結果、まわってくるチャンスが増える。私は学校の「**評判**」も同じだと思っている。だから先生たちの「**与える**」は必ず実を結ぶと考えている。【校長研修だより16号「**学校は評判産業**」】

では、一番うれしい「**与える**」は何か？ 私は「**質問**」だと思う。その人のことを知ろうとする「**質問**」である。私たちの仕事はいろんな人と関わる。「**与える人**」「**まず自分から**」。その反対は何か？ それは「**無関心**」である。

2学期も楽しくがんばりましょう！よろしくお祈りします。